

## さくら並木

～人のつながりの分断を防ぐ思いやり～

新型コロナウイルス感染症対策

大河原町長 齋 清志

これまでの最も早い開花となった一目千本桜ですが、皮肉なことに長く咲き誇り桜吹雪となつて舞い散ったばかりです。一方、新型コロナウイルス感染症拡大の嵐は、一向に収まらず猛威をふるい続けています。終わりの見えないことに社会不安が募るばかりですが、政府は4月16日に『緊急事態宣言』を全国に拡大して発出しました。一層の危機意識の醸成と、大型連休を前に、感染が広がる大都会からの人の流れを防ぐ狙いもあるとのことでした。

そして、この宣言を受けての本県の対応ですが、特措法に基づき改めて外出自粛と催物開催の自粛要請がなされました。催物の具体例については、屋内外を問わず複数の人が参加するイベント・パーティー・物産展・式典・講演会・スポーツ行事等として自粛を強く要請しています。何れこの先には、県内での休業要請やそれに伴う補償についても決断がなされるものと認識しているところです。

さて、本町の現状と対応についてですが、国・県の方針を確認しながら対策本部会議を重ねて開催して具体的な取り組みを決定しています。感染症対策の徹底した啓発や

町施設の衛生管理をはじめ、小中学校の休業延長や町施設の休館の決定とそれに伴う告知に努めています。さらには、国・県の実施する様々な支援策への早い対応の準備をしています。また、町内の現状についての情報共有を図りながら、企業や事業所と生活困窮世帯への町独自の支援について検討を急いでいるところです。

そしてまた、本町には仙南二次医療圏の拠点として重要な役割を担う『みやぎ県南中核病院』の存在があります。地域医療の抱える課題が山積する厳しい環境に晒されていますが、県内での医療崩壊の懸念が広がる影響が心配です。マスクも人手も足りないギリギリな状況にあつて、応援体制の整備は急務となっています。命懸けで頑張っている医療関係者の皆様への心からの感謝の念を是非みんなで共有しなければならぬと強く受け止めています。

人口減少と同時に進む少子高齢社会へ向い拍車のかかる現代ですが、地域活力の維持や支えあいの仕組みづくりに関わる最大のテーマは、『人のつながり』を守ることだと考えてきました。今回の新型コロナウイルスのパンデミックが

投げかけた指摘の中には、この『人のつながり』を分断されてはならないという隠された内面があるように思えてなりません。この様な時に、全国では感染者の家族や病院スタッフへの偏見や差別などの思いやりのない言動が生じているとの報道がありました。悔しい気持ちが込み上げてきて残念でなりません。

生命の尊重と安全安心な暮らしを守るために、そして社会的に孤立する人々に対して、一人ひとりの存在を認め合うやさしさと包摂が大切にされる社会でなければならぬと痛感しています。一日も早い克服を願って止まない毎日です。

(4月20日記)

THANK YOU





町内小中学校の情報を  
毎月お届けします

## 学び舎通信

令和2年度スタート

～元気に登校 しっかし活動 笑顔で下校～

4月8日に第1学期始業式が行われ、令和2年度がスタートしました。コロナウィルス感染症対策として、放送による始業式でしたが、静かに放送を聞き、落ち着いた雰囲気の中で行われました。6年生の代表2名が抱負を発表し、心新たにしました。「下級生の手本となるよう、学校のためにがんばりたい。勇気を出して手を挙げて発表したい。」「ハンカチ、ティッシュ、名札を忘れずに持つてくること、挨拶をしっかしすること、丁寧な言葉遣いをする」と、理科と英語をがんばりたい。」と最上級生として何事にも奮起する意気込みが伝わる発表でした。

4月9日には、かわいい48名の

新入生が南小学校の校門をくぐりました。校長先生から担任の先生を紹介されると、大きな目で見つと担任の先生を見つめていました。呼名されると手をぴんと伸ばして大きな声で返事をし、笑顔があふれ、ぴかぴか輝いていました。



大河原南小学校

暗唱大好き

活躍が楽しみな3年生！

今年度から大河原中学校は暗唱読本の内容を国語の時間で学習します。暗唱読本に書かれてある内容をより深く学ぶことをねらいとしています。新型コロナウイルス感染防止のため、まだ授業は始まっていません。休校中の過ごし方として学校から課題が渡されました。各教科の課題に取り組みとともに、読書にも勤しみ、暗唱読本にも「特に」取り組んでほしいです。今年度の3年生は、1月31日に立志式を迎えました。一人一人が、将来の目標を立て、思いを作文にまとめました。暗唱読本から学んだ志が一人一人の夢の中に入って



大河原中学校

## えずこホール からのお知らせ

### 芝居のセリフ、 うたの歌詞を 募集!!

テーマ  
“大河原に  
ないと困るもの  
なくなったら困るもの”

テーマに沿って考えた、ことばをえずこホールに送ろう！手段はEメール、はがき、手紙などなんでもOK！皆さんから募集した“ことば”は、プロの芸術家がお芝居にしたり、音楽と合わせて歌にするなど、作品に仕立てます。



演劇家: 柏木陽



音楽家: 片岡祐介

できた作品は、インターネット上で発表するか、秋頃発表会を行うか、後日お知らせいたします。詳しくは、えずこホール ホームページをご覧ください。電話でお問い合わせください。

えずこホール  
仙南芸術文化センター

※えずこホールは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため休館中です。再開につきましてはホームページ等でご確認ください。

応募・お問い合わせ先

TEL 0224-52-3004

〒989-1267

柴田郡大河原町字小島1-1

info@ezuko.com

URL: http://www.ezuko.com/